

第6回男女共同参画企画ワークショップ 「研究と子育ての両立を目指して」

日時：12月8日（金）12:00～13:00

会場：B会場（1号館3階・131+132室）

世話人：松尾 勲（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）・金井 正美（杏林大学医学部）

※ランチョンセミナー形式としてお弁当を用意しております。

男女がともに能力を発揮できる男女共同参画社会の実現が要請されていますが、日本での女性の社会進出は国際水準から大きく遅れています。国連開発計画によると、日本女性の組織意思決定への参加度（注：ジェンダー・エンパワーメント指数）は1999年から2005年に至るまで、毎年38、41、31、32、44、38、44位へと停滞、後退を繰り返している状態であることが報告されています。研究活動の現場においても、「大学院生の比率に比べ、修了後に定着する女性研究者比率は低い状態に留まっていること、女性研究者には結婚していない人、子供がいない人が多い」という実態がアンケート調査から浮き彫りにされました。その理由として、制度整備や意識改革の遅れから研究と子育ての両立が困難であることが指摘されています。

日本の少子化は世界に無いスピードで進行しています。その一方、大学院生・ポスドクを含む研究者人口は現在も増加の一途をたどっています。現実には、少子化対策に逆行する、育児休暇も取得できない期限付きのポスドク職のみが増え、限られた数年間で千載一遇の成果を収めた人のみが、次の職を得るという、子育て等を行う者にとって大変不利な制度が強く押し進められています。このような環境下で、国としての適正な出生率を維持するための出産・育児を行うには大変な困難を伴います。

研究と出産・育児の両立を念頭においていない短期集中重視の評価制度だけではなく、より中・長期的な視点にたった評価制度やルールを作ることが、男女共同参画社会の実現には必要ではないでしょうか。

日本分子生物学会では、男女を問わず能力を生かすことのできる多様性を、学会の中に実現することをめざして、2002年に「男女共同参画ワーキンググループ」が発足しました。その後、ライフサイエンスの分野における男女共同参画の推進のための28項目からなる施策を提言しました（日本分子生物学会ホームページ参照）。今年は、提言で要請していた施策の幾つかが実現化され、制度として動き出しました。そこで、委員長である大隅典子先生から、今年の男女共同参画推進事業について概説して頂きます。次に、出産・育児後の研究復帰支援策の1つである特別研究員 RPD 制度に焦点をあて、日本学術振興会総務部長の久保真季先生から制度の概要を説明して頂きます。最後に、会員皆様のご協力のもと行った本制度に関するアンケート結果に関して、分析担当の田賀哲也先生から、今後の発展や課題を含めてお話を頂く予定です。

注：ジェンダー・エンパワーメント指数

女性が積極的に経済界や政治生活に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るもの。女性が人間の能力を活用し、人生のあらゆる機会を活用できるかどうかに焦点を当てている。具体的には、女性の所得、専門職・技術職に占める女性の割合、行政職・管理職に占める女性の割合、国会議員に占める女性の割合を用いて算出している（国連開発計画、人間開発報告書より）。

- 12:00 「はじめに」
松尾 勲（大阪府立母子保健総合医療センター研究所）
- 12:05 「研究も子育ても諦めない！」
大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科）
- 12:20 「特別研究員 RPD の概要について」
久保 真季（日本学術振興会）
- 12:35 「特別研究員 RPD 制度の改善に向けたアンケート結果について」
田賀 哲也（熊本大学発生医学研究センター）
- 12:50 「まとめ」
金井 正美（杏林大学医学部）

日本分子生物学会 2006 フォーラム

「ポスター展～女性研究者支援の今と未来～」のお知らせ

日本分子生物学会
男女共同参画委員会

○趣旨

日本分子生物学 2006 フォーラムでは、実行委員会（委員長：町田泰則名古屋大学教授）のご協力を得て、「ポスター展：女性研究者支援の今と未来」と題して、ポスター展示を行います。本年度第1回目の文部科学省・振興調整費を得て女性研究者支援事業をスタートさせた現場の10大学、さらに、あらたに支援事業を開始した科学技術振興機構(JST)や民間の研究助成財団を中心に「女性研究者支援の現状」を報告いただき、将来への展望について議論したいと思います。

○展示と発表の日時および場所

場所：名古屋国際会議場 2号館 2階 225号室（男女共同参画専用展示室）

発表の日時：12月8日（金）午後1時10分～3時10分

展示：フォーラム会期中、三日間展示します。

○出展大学・助成機関・助成財団

北海道大学・東北大学・お茶の水女子大学・早稲田大学・東京農工大学・日本女子大学・
東京女子医科大学・奈良女子大学・名古屋大学
科学技術振興機構（JST）・味の素奨学会

なお、同日のランチタイムには、ポスター発表に先立って、1号館3階B会場（131+132）において、分子生物学会の第6回共同参画ワークショップ「研究と子育ての両立をめざして」を開催いたします。お弁当を用意します。